

いながわ 猪名川河川レンジャー NewsLetter

猪名川水環境シンポジウム パネルディスカッション参加

■開催日:平成22年10月3日(日曜日)
■場 所:池田市民文化会館(アゼリアホール)小ホール
(主催:国土交通省近畿地方整備局猪名川河川事務所 参加:猪名川河川レンジャー)

住民と行政とのコーディネート、河川レンジャーのPR活動をしました。

「川とふれあい、人とふれあう、身近な川へ」をテーマに、猪名川水環境シンポジウムが平成22年10月3日に猪名川河川事務所主催で開催されました。このシンポジウムでは、基調講演、活動報告に続いてパネルディスカッションが行われ、横原レンジャーがパネルディスカッションに参加して、河川レンジャーの役割や活動内容や、活動を通じた猪名川の河川環境の状況についてお話ししました。



横原レンジャーのパネルディスカッションでの意見

- ・河川レンジャー活動の一環である「流域自治体との意見交換」では、猪名川の現状について知識・認識を深めていただけている。
- ・河川レンジャー制度によって、国・県といった管理の垣根をこえた活動ができています。
- ・流域住民のネットワークはできてきており、今後、自治体のネットワークができれば良いと考えている。
- ・東久代運動公園で実施している外来種対策では、オギ原が復活した。
- ・多くの人に、川に関心をもっていただけたことで、猪名川は良くなっていると感じている。水辺まつりの会場も、臭いがするようなどころだったが、イベント時に人が入ることで改善された。ひいては、川の環境も良くなっていると感じている。

第7回 水辺まつり

■開催日:平成22年9月19日(日曜日)
■場 所:薩川中園橋(尼崎市)
(主催:水辺まつり実行委員会、協力:猪名川河川レンジャー)

平成22年9月19日、水辺まつり実行委員会の主催する、「第7回水辺まつり」が、薩川中園橋の河川敷で開催されました。当日は、天候にも恵まれ、多くの方が会場を訪れ、ボート体験、さかなの手づかみ、模擬店など多彩な催しを思い思いに楽しんでいました。

河川レンジャーも開催準備に協力し、当日はブースでパネル出展して活動をPRしました。

栄木レンジャーのコメント

水辺まつり当日は例を見ない今年の猛暑のなかで開催されましたが、集まった人々なかでも子供たちの喜々とした賑わいは、猪名川薩川の水辺文化として確かな定着ぶりで、実行委員会みなさんのご労苦がしのばれます。

河川レンジャーブースでは、防災に関し「展示パネル」以外に「卓上水理模型」、「土嚢作り体験」、「ロープの取り扱い」も加わり、例年以上に関心が高まりました。

心理学では関心を高めるための「災害文化」の研究分野がありますが、とかく腰の引ける防災を積極的に取り組んでいただけるように、関心を引くような「水辺文化」のひとつと成すような防災コーナーにしていきたいものです。



栄木レンジャーのロープの取り扱い

猪名川河川レンジャーに関するお問い合わせは、下記ウェブサイト・メールアドレスをご利用頂くか、猪名川河川事務所 管理課までご連絡下さい。

猪名川河川レンジャーのウェブサイト: <http://ranger.web.fc2.com/>
メールアドレス: inagawa_ranger@ss.pacific.co.jp
猪名川河川事務所 管理課 電話番号:072-751-1111(代表) 住所:池田市上池田2丁目2番39号

猪名川河川レンジャー 検索

第5回 猪名川流域意見交換会 猪名川の環境と風景を見て歩き、 猪名川の現状について語り合おう



■ 水辺フォーラム 外来種対策

— 一回の猪名川クリーン作戦で各団体や地域へアピールすると提案

■ 猪名川水環境シンポジウム パネルディスカッション参加

住民と行政とのコーディネート、河川レンジャーをPR

■ 第7回 水辺まつり

開催準備に協力。ブースでパネル出展し活動をPR

河川レンジャー活動レポート

第5回 猪名川流域意見交換会

～猪名川環境と風景を見て歩き、猪名川の現状について語り合おう～

平成22年12月3日(金)、猪名川河川レンジャー主催による第5回猪名川流域意見交換会を開催しました。今回は現地をみた上で、意見を交換しようという主旨で、軍行橋周辺や下流のヒメボタル生息地を参加者のみなさんと見学した後、下河原センターで猪名川の現状や望ましい猪名川について語り合いました。

外来種対策とレキ河原の再生

軍行橋の上流側では、猪名川河川事務所が河川敷を切り下げて、1週間に1回程度水が浸かる高さにし、川らしい環境としてレキ河原の再生をめざしています。

また、ここでは外来種のオオバクサが繁茂しています。オオバクサが繁茂すると、在来種が育たなくなるほか、喘息の原因にもなるとも言われています。このため、流域ネットワーク猪名川をはじめとした各種団体がオオバクサの抜き取りをされています。小さい時に抜き取ることが効果的であることなど、流域ネットワーク猪名川の中島さんからご説明をいただきました。



再生されたレキ河原



外来種対策の説明

ヒメボタルの飛ぶ猪名川に

猪名川ヒメボタルの会は、今から6年前にヒメボタルが生息しているのがわかったことがきっかけで、その生息地を守る活動をはじめられました。ヒメボタルは5月上旬から～6月中旬まで見られますが、なかでも5月下旬が最も多く見られます。

ヒメボタルは陸生のホタルで、水辺で飛び回るといったことはないので、すみかが人の手によって壊されてしまうことが心配です。昨年もヒメボタルの生息地のあたりでゴルフの練習をしている人がいたようですが、会のひとたちが、ここがヒメボタルの生息地であることを知らせる貼り紙をはることで、ゴルフの練習などをする人はなくなり、ヒメボタルの生息地を守ることができたそうです。



ヒメボタル生息地

基調講演～猪名川に暮らす虫たち～

伊丹市昆虫館 学芸スタッフの長島聖大氏に「猪名川流域に暮らす虫たち」と題し、お話をいただきました。全世界には生物が180万種類いて、そのうち昆虫が100万種類、日本には3万種類の昆虫がおり、伊丹市域では、1232種の昆虫が確認されているそうです。最近では、自然が減少し、昆虫が暮らす場所も減ってきています。猪名川の特徴的な昆虫にはヒメボタルがいて、光り方が早くゲンジボタルなどよりは小さいが、伊丹市にいるヒメボタルは、全国最大の大きさだそうです。ヒメボタルのほかにも、シリビアシジミ、カバマダラといった珍しい昆虫も確認されています。長島さんはこれからも調査を継続し、伊丹市内の昆虫図録の充実に取り組んでいきたいと考えておられるそうです。



長島聖大氏の基調講演

外来種のいない猪名川をめざして～市民活動の報告～

■外来種対策～アスピ友の会

アスピ友の会は尼崎市東部浄化センターのピオトープづくりに取り組んでこられました。アスピ池の周辺に生える外来種のヘラオオバコやコマツヨイグサを手で駆除されています。

最近では、近くの大学に通う大学生に声かけ、一緒にオオバクサの駆除に取り組んでおられ、オオバクサは減ってきているそうです。

■竹、外来種対策と子供の遊び場～NPO川西再発見

「川西再発見」のみなさんは、子ども達を身近な自然で遊ばせたいという思いで活動されています。昨年2月の猪名川クリーン作戦で、こんにやく橋付近のゴミをみんなで拾われましたが、6月ごろには雑草が生い茂り、水辺に近づくことができない水辺になってしまったそうです。

そこで、人と自然の博物館の石田先生を招いて学習会を開き、こんにやく橋の水辺づくりに取り組まれました。9月に雑草の刈り取りをされた時には、竹の駆除が大変だったそうです。これからは子ども達がのびのび育つふるさとの川づくりに取り組んでいきたいとのことでした。



これからの猪名川について ～グループワーク～

参加者が2つのグループに分かれて、ワークショップ形式で今の猪名川の様子、望ましい猪名川の姿、自分達ができることについて、河川レンジャーの進行で語り合いました。

今の猪名川に対して、川に近づきにくい、ゴミが多い、生き物が少なくなったという意見もありましたが、少し水がきれいになってきたという声もありました。これからは、子どもたちが遊べる川、外来種がいない多様な生き物がいる川にという声が多くありました。

そのためには、自然の再生や親水利用の区間を分けて川を使っていくこと、イベントを開催して、川にいく仕組みを作ること、一人ひとりがゴミ拾いや、外来種の抜き取りをするなど地道な活動をしていくべきだという意見が出されました。



水辺フォーラム

開催日 平成22年12月5日(日) 13:00～16:30

場所 高安記念会館

主催 水辺フォーラム実行委員会

今年の水辺フォーラムでは、「水辺まつりとそれを囲むアクションの大きな枠組みについて再確認する必要がある」との意見を踏まえて、水辺フォーラムの目的とこれまでの経過、アクションプランの具体化について話しあわれました。

アクションプランのテーマを「環境」とし、平成23年6月19日(日)に宮園橋付近でアレチウリなどの外来種対策を行うこと。また、住民に川に目を向けてもらうために、この外来種対策の予定を次回の猪名川クリーン作戦で各団体や地域へアピールすることも提案されました。

このフォーラムには栄木レンジャーと橋原レンジャーが参加しました。河川レンジャーからは平成22年12月に開催した猪名川流域意見交換会での参加者の意見を紹介しました。望ましい猪名川の姿として「子どもたちが遊べる川にしたい」、「外来種を減らし多様性のある環境に」などがあること、そのために私達ができることとして、「学校教育との連携で地道に活動する」、「1人ひとりが毎日ゴミ拾いや外来種の抜き取りなどを行う」などの意見が出されたことを報告しました。

また、橋原レンジャーからは、特定外来種のアレチウリは抜き取った後も適切な処理が必要であること、外来種対策と一緒に取り組んでいく団体として「流域ネットワーク猪名川」や「アスピ友の会」があるというお話をしました。栄木レンジャーからは、活動の効果を広くアピールしていくために、外来種対策を行ったあとには、モニタリングをしていくことが大事であるというお話をしました。

また、水がきれいなら、釣った魚をそのまま食べることができることから、藻川でとれたハゼの天ぷらを試食しました。また、藻川に生えている在来種と外来種についてのお話もありました。

フォーラムの活動そのものでありませんが、次のような意見もありました。

- ・ゴミを拾う活動はできたが、ゴミを捨てさせない活動はなかなかできない。このためには、川の大切さや面白さがわかって地域が参加してくれる方法を考えなければならない。なぜ外来種がダメなのか理解できる工夫、かんたんに人に伝える方法を工夫することが必要。
- ・岡田学園女子大学では、平成22年12月11日の環境学生会議で水辺まつり・水辺フォーラムに参加したことをについて発表予定。大人が体験していないことを子供に伝えることは出来ない。自然と文化の森協会では、大人の自然体験を企画しており、ぜひ参加して欲しい。



外来種と在来種の説明



水辺フォーラムのようす



藻川でとれたハゼの天ぷらの試食